
面白おかしい俺の非日常生活

アルト

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

面白おかしい俺の非日常生活

【Nコード】

N3223P

【作者名】

アルト

【あらすじ】

主人公は、男だった。

そう、だった…

しかし、ある日の朝起きて驚く。

なんと、自身の身体が女になっていた！

しかも、目の前には自分の姿をした元女が現れて……！？

女になってもやはり心は男な主人公がゆく奇人、変人と繰り広げる物語。

01 気づいたらこうなっていた。(前書き)

文章力が上がっておらず、見苦しいところがあると思いますが、気にせず読んでください。

01 気づいたらこうなっていた。

朝、起きたら女になってました。

引き締まった男の身体は、丸みを帯びた女の身体に…しかも胸までちゃんとありましたとさ。

あなただっ たら信じますか…??

俺の場合…

「そんなの信じるかぁーーーーーっ!!!!!!」

そっいつて、思いっきり枕を床に投げつけ八つ当たりする。

そう、これは夢のような…でも、夢じゃない俺のありえなかった非日常生活のほんの予兆に過ぎなかった。

+*+*+*+*

本当に信じられないが、15年間今の今まで男だった俺は朝起きたら女の身体になっていた。

しかも顔は…

「俺のタイプの女に全部当てはまってる!!!!!!」

肌は色白で、目はぱっちりとしていて、瞳は透き通った黒色をしている、そして髪はダークブラウンで肩につくくらいの長さをしていて、唇は少し厚みがあって可愛らしい印象を受ける…

そんな洗面台の鏡に映る可憐な容姿の少女（要するに美少女）を驚きと焦りと不安を抱えながら見ていると、

「初めまして。空よりまた上の天の世界よりやってきました」

背後から声が聞こえてきて思わず振り向いた。

目の前には元の俺の格好をした奴がいた。

さっきまでそこには誰もいなかったはずなのに…というかお前、

「何者だっ！！？」

そう聞くと、

「何者と申されても、天から来たものだと言ほど申し上げましたが…」

「つか、その喋り方丁寧すぎて気持ち悪い。俺の顔には似合わないからやめてくれ。ところで、名前は…？ あと、俺の身体を返せ！」

「喋り方は癖なので、直しようがありません。名前とはなんのことですか…？」

「は…？ 名前しらねえの…？？？ それよか、早く俺の身体を返し

てくれないか？」

意外な言葉に耳を疑った。

天の世界の人やらには、名前もねえのか……？

「その代わり、固体番号ならあります。私のナンバーは116です」

「わかった……じゃあ、お前はヒイロだ！！いちのひーふーみーの読み方といとろでヒイロー！」

「ヒイロ……ですか。有難うございます。まさか、名前をもらえるなんて……」

思いつきでつけた名を聞いたヒイロはうれし泣きをしていた。

「うつ……うつ……そういえば、まだ何故^{なぜ}あなたを女の方の体にしたかは答えてないですよね？」

「？……ああ」

涙をこらえながら話し始めるヒイロにそういえば大事なことを忘れていたと、俺は気づいた。

「私たち天の世界に住むものは人間界には来てはいけない掟^{おきて}があるのです。

しかし……私には人間界に行ってしまった兄のナンバー106がいます。

だから、ここまで追ってきました。しかし、私も掟を破った罪人の身。

はっきり言って、この世界のことは何にも分かりません。

そこで、私は自身の身を隠すのと、共に行動する頼もしい仲間を作るべく、導きの魔法を使ったのです。

導きの魔法は、魔法を使ったものを導いてくれるのです。

その魔法も禁じられていましたが、私は既に罪人の身。

もう掟なんて怖がっていられません。

躊躇^{ちゅうちゅう}はありましたが、魔法を使いました。

すると、どうしたものでしょう。元は女だったのですが…私は男になっていました…というわけです」

「いやいやいや、話し長すぎるし!」

俺はヒロが一連の騒動の理由を話し終えると、ツツコミを入れた。

「つまり、あれか…俺はあのファンタジーの産物の魔法によって、女になったと!」

「はい」

「しかも、その女は俺の理想の女で…!？」

「そうです。それは私がサービスで魔法を使った後にしたものが…」

「そうか…それで、あんなに可愛い顔になっていたのか…」

「はい、とても可愛らしいですよ」

ヒイロは言い終えた後でニコリと笑った。

でも…

魔法…？

仲間…??

掟…??

天の世界…???

「いったい俺はこれからどうすればいいんだっ!?!？」

01 気づいたらこうなっていた。(後書き)

ちっぽけな存在の僕とみんなの逆バージョンを書きたくて、書いてみました。

これから主人公が暴走していきます。

更新は気まぐれなので不定期更新です。

よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3223p/>

面白おかしい俺の非日常生活

2010年12月5日22時24分発行